

「献血推進2020」の評価について

1. 経緯

少子高齢社会が進む中、血液の安定した供給体制を構築するため、平成22年度に設定した「献血推進2014」の結果及び日本赤十字社が実施した血液需給将来推計シミュレーションの結果等を踏まえ、令和2（2020）年度までの達成目標を設定し、献血推進を行ってきた。

2. 「献血推進2020」の令和元年度までの実績

項目	目標	平成27年度 (2015年)	平成28年度 (2016年)	平成29年度 (2017年)	平成30年度 (2018年)	令和元年度 (2019年)
若年層の献血者数の増加	10代の献血率を7.0%まで増加させる	5.4%	5.2%	5.3%	5.4%	5.5%
	20代の献血率を8.1%まで増加させる	6.5%	6.2%	5.7%	5.6%	5.7%
	30代の献血率を7.6%まで増加させる	6.0%	5.8%	5.4%	5.3%	5.5%
安定的な集団献血の確保	集団献血等に協力いただける企業・団体を60,000社まで増加させる	53,316社	54,696社	56,151社	57,781社	59,280社
複数回献血の増加	複数回献血者を年間120万人まで増加させる	967,142人	954,067人	944,962人	949,140人	983,351人

献血の周知度 の上昇	献血セミナー の実施回数 (年間)を 1,600 回まで 増加させる	1,211 回	1,772 回	2,094 回	2,150 回	1,950 回
-----------------------	--	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------

- (1) 若年層の献血率については、10代は、平成28年度に一時低下したが、平成29～令和元年年度と上昇した。20代、30代は、平成27年度以降、低下傾向にあるが、令和元年度に上昇に転じた。引き続き、若年層への働きかけを行っていく必要がある。
- (2) 企業献血については、着実に数字を伸ばしてきたが、目標の60,000には届いていない。引き続き企業献血について働きかけを行っていく必要がある。
- (3) 複数回献血については、平成29年度まで低下傾向にあったが、その後上昇に転じた。血液の安定供給のためにも、引き続き複数回献血者の確保に取り組んでいく必要がある。

3. 今後の方向性

- ・献血推進2020における数値目標については、「献血の周知度の上昇」以外は達成が難しい状況となっている。
- ・しかしながら、少子高齢社会において血液の安定した供給体制を構築するためには、これらの項目を達成することが必要であることから、次期中期計画においても引き続き目標に掲げることとし、目標の数値については、社会情勢を踏まえ検討する。
- ・次期中期計画については、2025年までの5年間とする。